

(別紙様式3)

令和3年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 広島県広島市中区基町9-42  
管理機関名 広島県教育委員会  
代表者名 平川理恵

令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間  
令和2年4月23日～ 令和3年3月31日
- 2 事業拠点校名  
学校名 広島県立広島国泰寺高等学校  
校長名 佐藤 隆吉
- 3 構想名  
広島から世界へ！ 平和に貢献するグローバル人材の育成
- 4 構想の概要  
「グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材の育成」を目標として、世界の平和に重要な使命と役割がある広島という場所だからこそできるグローバル人材育成という視点から、「平和」をグローバルな社会課題と設定し、取組を進める。  
伝統校であり最も平和公園に近い県立高等学校である広島国泰寺高等学校を拠点校とし、様々な学科、コースなど特色のある国公立学校7校で広島アドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成し、より高度で多様な学びを、広島大学、県立広島大学との連携によって提供していく。各学校で実施される総合的な探究の時間を中心に、各学校で設定した特色ある新科目の学習や、様々な学校の生徒が協働で探究するプロジェクト学習、探究的な海外研修、そして平和を共通テーマとした高校生国際会議での取組を通して、イノベーティブなグローバル人材の育成を目指す。
- 5 教育課程の特例の活用の有無  
無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目		実施期間（令和2年4月23日～令和3年3月31日）													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
A L ネットワークの体制整備	外部アドバイザーとの連携		事業説明	契約	→										
				随時連携(カリキュラム開発, オンライン探究プログラムについて)											
	事業協働機関との連携		(広島大)	講座開設準備	受講者募集	講座開講	→					次年度受講者募集			
				随時連携(生徒受講状況, 次年度開講講座等について)											
		(県立広島大)					受講者募集	講座開講	→						
	随時連携(生徒受講状況, 次年度開講講座等について)														
事業拠点校, 事業共同実施校, 事業連携校との連携	事業説明		★								★	★	→		
	随時連携(必要に応じて学校訪問(★)による連携)														
事業内容に応じた連携	→														
	地元企業との連携(事業拠点校の取組協力等について) Stanford大との連携(遠隔講座の実施について) NPOとの連携(国内フォーラム, 国際会議の開催について)														
運営指導委員会の開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
				第1回委員会							第2回委員会				
コンソーシアム会議の開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
			第1回会議								第2回会議				
拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会の開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
				第1回会議(中止)				第2回会議		第3回会議		第4回会議			
事業評価の実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
			→									→			
	検証担当選定・依頼, 評価方法の検討, 決定 評価資料の収集, 分析														
財政支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
			→					→							
	関係校に必要経費を令達			次年度予算を確保(県費)											

(2) 実績の説明

【実施体制の整備】

a-1. 拠点校を中心として組織的に研究開発・実践に取り組む体制の整備状況

広島ALネットワークにおいて、次表に示す体制を整備し、研究開発・実践に取り組んだ。

区分	機関名・学校名等	コンソーシアムにおける役割
管理機関	広島県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業全体の統括，進行管理</li> <li>○事業に係るステークホルダー間の連絡，調整</li> <li>○事業の進行に応じた外部機関との連携</li> <li>○必要経費の管理，執行</li> <li>○事業に係る各種会議の開催</li> <li>○県主催プログラムの企画・実施</li> </ul>
事業拠点校	広島県立広島国泰寺高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な探究の時間」，文理科目と外国語を融合させた新科目及び文理科目を幅広く学ぶ教育課程の研究・開発</li> <li>○ALネットワーク関係校合同の成果発表会開催</li> <li>○運営指導委員会への出席</li> <li>○コンソーシアム会議への出席</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会への出席</li> <li>○カリキュラム開発会議への出席</li> <li>○カリキュラム開発に係る有識者を招聘した協議会の実施</li> <li>○カリキュラム開発に係る校内ワークショップの実施</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校合同成果発表会の開催</li> </ul>
事業共同実施校	広島県立広島叡智学園中学校・広島叡智学園高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際バカロレアに基づいたカリキュラム開発</li> <li>○事業拠点校の研究・開発に対する協力</li> <li>○ALネットワーク関係校の教員を対象とした研修における実践報告</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会への出席</li> </ul>
事業連携校	広島県立呉三津田高等学校 広島県立福山誠之館高等学校 広島県立西条農業高等学校 広島県立広島中学校・広島高等学校 広島大学附属福山中学校・高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業拠点校の「総合的な探究の時間」，文理科目と外国語を融合させた新科目の研究・開発に対する協力</li> <li>○各学校の研究・開発の成果についての情報共有</li> <li>○各学校のカリキュラムの改善・検討</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会への出席</li> <li>○カリキュラム開発会議への出席</li> <li>○カリキュラム開発に係る有識者を招聘した協議会への参加</li> <li>○運営指導委員会への参加</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校合同成果発表会の開催</li> </ul>
事業協働機関	広島大学 県立広島大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○（広島大学）事業拠点校の文理科目と外国語を融合させた新科目の研究・開発に対する指導・助言</li> <li>○拠点校・共同実施校・連携校等連絡協議会における指導・助言</li> <li>○カリキュラム開発に係る有識者を招聘した協議会への出席</li> <li>○アドバンスト・プレイスメントの実施及び体制整備</li> <li>○コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
カリキュラム・アドバイザー	株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業拠点校の「総合的な探究の時間」の研究・開発に対する指導・助言</li> <li>○事業連携校の取組状況についての指導・助言</li> <li>○コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
海外交流アドバイザー	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト 理事，調査・研究統括，グローバル教育プロデューサー 木村 大輔 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理機関主催の海外研修プログラム（事前・事後指導含む）の企画・実施（新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止）</li> <li>○業拠点校が実施する海外研修プログラムに対する指導・助言（新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止）</li> <li>○コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
課外活動アドバイザー	特定非営利活動法人パンゲア 森 由美子 氏 高崎 俊之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理機関主催の国内フォーラム及び高校生国際会議に向けた生徒実行委員会の活動に対する指導・助言</li> <li>○管理機関主催の国内フォーラムの企画・実施</li> <li>○管理機関主催の国際会議の企画</li> </ul>

株式会社タイガーモブ 中村 寛大 氏 伴 優香子 氏	○管理機関主催の国内フォーラム及び高校生国際会議に向けたオンラインによる探究活動プログラム、及び異文化間コミュニケーション講座の活動に対する指導・助言
----------------------------------	---

a-2. 連携校において、国の他事業を実施している場合、複数の取組を実施するための体制を整備したことや調整したこと

国の他の事業の指定を受けている事業連携校においては、本事業の遂行に当たり、次のように体制を整備、調整している。

学校名	事業名	体制
広島県立呉三津田高等学校	令和2年度教育課程研究指定校事業	左記の事業の担当者とは別にWWLの担当者を置き、相互に連携を図った。
広島県立西条農業高等学校	スーパーサイエンスハイスクール支援事業（SSH）	SSHの研究組織の担当者1名をWWLの担当者とし、SSHの内容との関連を図れるようにした。
広島大学附属福山中学校・高等学校	令和2年度ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業（WWL）	カリキュラム開発拠点校としての研究の成果を他校へ普及させるとともに、本県コンソーシアムからの情報を自校の取組にも生かすことができるようにした。

b. 管理機関の下、関係機関の間で十分な情報共有体制を整備した状況

本事業が円滑及び適切になされるよう、管理機関において、個別のプログラムの具体的な実施計画を作成した。また、管理機関の下、次表の会議を定期的に行い、関係機関の間で十分な情報共有ができる体制をとった。

会議名	目的	構成	時期
コンソーシアム会議	広島ALネットワーク・コンソーシアムを構築するため、事業の内容や計画・進捗に関する情報を共有するとともに、専門的かつ総合的な観点から、それらの方向性を決定する。	<b>【事業協働機関】</b> 広島大学 高大接続・入学センター 特任教授 杉原 敏彦 氏 大学院人間社会科学研究科 教授 草原 和博 氏 県立広島大学 理事・副学長 馬本 勉 氏 <b>【カリキュラム・アドバイザー】</b> 株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀 氏 <b>【海外交流アドバイザー】</b> 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト 理事、調査・研究統括、グローバル教育プロデューサー 木村 大輔 氏 <b>【管理機関】</b> 広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部高校教育指導課 課長 竹志 幸洋 <b>【事業拠点校】</b> 広島県立広島国泰寺高等学校 校長 佐藤 隆吉	6月 2月
拠点校、共同実施校、連携校等連絡協議会 (毎回カリキュラム開発会議を兼ねて実施)	コンソーシアム会議で決定された方向性を受け、事業の内容や計画を共有し、個別のプログラムの内容や進め方について具体的に協議をする。 また、事業拠点校の研究開発	○ 管理機関の職員（指導主事等） ○ 事業拠点校、事業共同実施校、事業連携校の校長・担当教員	7月 <sup>*</sup> 11月 1月 3月

	の内容について協議をしたり、各学校の取組について情報交換をしたりする。		
カリキュラム開発に係る有識者を招聘した協議会	事業拠点校等のカリキュラム開発の研究を円滑に行うために、課題に応じて有識者を招聘した教員向けの研修会を実施し、各学校の取組について情報交換をしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部有識者</li> <li>○ 管理機関の職員（指導主事等）</li> <li>○ 事業拠点校、事業共同実施校、事業連携校の校長・担当教員</li> </ul>	9月 10月 11月

※7月は、当日大雨警報の発令により各学校における臨時休業の対応が発生したため、中止とした。

#### c. 管理機関の長、拠点校等の校長が果たした役割

構想内容の水準を維持し、必要な改善を図るために、管理機関が情報収集、外部機関との連携を積極的に進めるとともに、拠点校等に対しては、各学校のこれまでの研究や学校の特色を生かして役割を担うよう分担した。具体的な内容は次表のとおりである。

機関・高校	情報収集・分担内容
管理機関	国等の教育動向や先進的な取組の情報収集／広島大学等とのアドバンスト・プレイスメント実施に向けた調整／Stanford e-Hiroshimaの実施に向けたStanford大学との協議／海外研修の代替プログラムの開発・実施／高校生国際会議の開催に向けた生徒実行委員会の実施／企業や国連機関などへの協力依頼／事業に係る各種会議の開催 等
事業拠点校	「総合的な探究の時間」カリキュラムの開発、実施及び評価／外国語と文理教科との融合科目のカリキュラム開発・実施・評価・改善／文理科目を幅広く履修する教育課程の実施／カリキュラム開発に係る各種会議の実施／WWL合同成果発表会の実施 等
事業共同実施校	国際バカロレアに基づいたカリキュラム開発／拠点校の研究開発への協力／「総合的な探究（学習）の時間」に係るALネットワークの教員向け研修における実践報告の実施／合科型単元の開発・実施・評価・改善／カリキュラム開発に係る各種会議への出席 等
事業連携校	拠点校の「総合的な探究の時間」の改善に向けた協力／拠点校をモデルとした文理教科等との融合科目のカリキュラムの開発（検討）・実施／各学校の研究内容（SSH事業、WWL事業、国立教育政策研究所の指定研究、県の指定研究）に関する情報提供／カリキュラム開発に係る各種会議への出席 等

#### d. 運営指導委員会の開催実績及び検証資料の収集の状況

〔運営指導委員会の構成〕

区分	構成員
委員長	マツダ株式会社 執行役員・人事本部長 滝村 典之 氏
委員	関西国際大学基盤教育機構 教授 荒瀬 克己 氏
委員	京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 氏
検証委員	広島市立大学大学院情報科学研究科 教授 井上 智生 氏
委員	国連訓練調査研究所 持続可能な繁栄局 局長 隈元 美穂子 氏

※運営指導委員会には、管理機関から教育委員会事務局学びの革新推進部長、事業拠点校から広島県立広島国泰寺高等学校長が出席する。

〔開催実績〕

回	日時	内容
1	令和2年7月27日（月） 10：00～12：30	・令和元年度実施報告（成果と課題）及び令和2年度実施計画について管理機関、事業拠点校から説明

		・コンソーシアムの構築，高校生国際会議とその開催に向けた取組，事業拠点校の取組について運営指導委員から指導・助言
2	令和3年2月17日（水） 14：30～16：30	・令和2年度の事業の到達状況，研究開発の状況，事業検証の結果，次年度以降の計画について管理機関，事業拠点校から報告・説明 ・運営指導委員による事業評価及び次年度以降の事業推進に向けた指導・助言

[検証資料]

○ 資質・能力の育成状況

検証項目	評価対象	検証資料
マスタールーブリックに基づく資質・能力	広島国泰寺高等学校 第1，2学年生徒	・生徒自己評価アンケート ・教員向けアンケート ・保護者向けアンケート
「総合的な探究の時間」で育成する資質・能力	広島国泰寺高等学校 (単元ごと・年間)	・事業拠点校作成のルーブリックに基づく評価
スーパーグローバルハイスクール事業において設定されたグローバル人材の資質・能力等	広島国泰寺高等学校，呉三津田高等学校，福山誠之館高等学校，西条農業高等学校，広島高等学校 第1，2学年生徒	・生徒自己評価アンケート
Stanford e-Hiroshima を通して育成されるコンピテンシー	Stanford e-Hiroshima 受講生徒	・生徒自己評価アンケート
国内フォーラム及び高校生国際会議に向けた生徒実行委員会，オンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション講座の活動を通して育成されるコンピテンシー	国内フォーラム及び高校生国際会議に向けた生徒実行委員会，オンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション講座参加生徒	・課外活動コーディネーターによる評価 ・生徒自己評価アンケート

※事業連携校の広島大学附属福山高等学校は，令和2年度からWWL事業のカリキュラム開発拠点校に指定されたため当該校と協議の結果，評価対象者から除外した。

○ その他

検証項目	評価対象	検証資料
事業の到達状況	管理機関	・事業計画に基づく管理機関自己評価
授業改善の状況	事業拠点校教員	・授業改善に係る調査
事業共同実施校，事業連携校の取組状況	事業共同実施校，事業連携校研究担当者	・研究担当者向けアンケート

e. 拠点校等の卒業生の卒業後の進路とイノベティブなグローバル人材としての成長の過程を追跡把握する仕組み等

構想計画書において示した次の①～⑥の事業に参加した生徒の名簿を各学校で作成するとともに，管理機関，事業拠点校においてプログラムごとに資質・能力の育成状況を見取る評価を実施して，卒業までの3年間の経年変化及び卒業後少なくとも3年間の追跡調査ができるように準備をした。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①総合的な探究の時間の探究活動におけるグローバルな社会課題をテーマとして探究（事業拠点校）</li> <li>②外国語と文理教科との融合科目の履修（事業拠点校普通科普通コース）</li> <li>③大学での先取り履修や高度な学びに当たる講座の受講（事業拠点校，事業連携校）</li> <li>④県が設定した探究的な活動や英語によるコミュニケーション活動を中心としたオンライン講座（事業拠点校，事業連携校）</li> <li>⑤ネットワークで実施する高校生国際会議生徒実行委員会への参加（事業拠点校，事業連携校）</li> <li>⑥高校生国内フォーラム，高校生国際会議（事業拠点校，事業連携校）</li> </ul> |
|---|

※②③④⑤⑥の実施は，令和2年度以降



f. アジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる留学生等の日本での学習や生活を支援する体制

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により「アジア架け橋プロジェクト」については、留学生の受入れ及び派遣を中止している。しかし、管理機関としては、公益財団法人AFS日本協会と定期的に連携し、情報収集に努めた。海外の連携校等からの留学生等についても同様に、受入れは困難な状況にある。

g. 事業拠点校での取組について、本事業による取組が学校全体の授業改善や関係機関の教職員や生徒の意識改革を促した状況

〔授業改善の状況〕

回答した全ての教科において、本事業における資質・能力の育成のために、教科の特性に応じた何らかの工夫を行っている。

地理歴史科、公民科、理科等複数科目ある教科においては、【目指す姿】を教科として再整理して取組を進めた。また、昨年度は【目指す姿】を設定していなかった資質・能力がある教科においても、全ての資質・能力で【目指す姿】が設定されていた。それにより、授業における工夫も改善が見られている。

これらのことから、教科内での目指す生徒の姿の具体化や共有化が図られたり、育成を目指す7つの資質・能力を各教科でどのように育成していくべきかの議論が進んできたりしており、グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材の育成を目指した授業改善が進んできていると考える。

一方で、【目指す姿】が発揮される場面が具体的に表現されるなど、昨年度の取組を踏まえて、教科において育成を目指す生徒の姿が明確になったとみることもできるが、各教科が全ての資質・能力を網羅的に指導しようとしている可能性も否めない。例えば、国語科が昨年度から資質・能力の定義と目指す姿や学習活動との整合性について継続して検討しているが、教科によって育成を目指す資質・能力を焦点化して指導することも考えられるので、全教科でバランスよく指導するという発想も必要であろう。

〔生徒の意識改革〕

事業拠点校において、開発したカリキュラムに対する評価は、昨年度同様、総合的な探究の時間で育てたい資質・能力の5つの観点について4月時点と2月時点での到達度を生徒がルーブリックを用いて自己評価し、その変化を量的に比較分析した。また、担当教員も2月時点で生徒と同じルーブリックを用いて評価を行い、その結果を生徒の自己評価の結果と比較して評価の信頼性を検討した。さらに、生徒の自己評価結果が変化した理由を、生徒の自由記述や各取組に対する生徒の自己評価アンケート結果、成果物の内容から質的に分析した。

その結果、5つの資質・能力がいずれも伸びたと考えている生徒がほとんどであった。また、2月時点での評価が生徒と教員でほぼ同じであり、一年間の学習を通して、第1学年及び第2学年の生徒に育てたい資質・能力の伸長が図ることができた生徒だけでなく教員も捉えていることが分かる。

【財政等支援】

a. 自己負担額の支出計画

本年度当初予定していたもの以外に、次の表に示す項目について、管理機関として支出を行った。詳細は次表に示すとおりである。

項目	内容	実施額（千円）
より高度な内容を学びたい 高校生のための環境整備	Stanford e-Hiroshima プログラム開発	3,261

b. 人的又は財政的な支援、研修やセミナー等の実施に向けた実施状況

事業拠点校に対しては、緊密な連携を通して、事業の進捗状況を把握するとともに、学校が単独で対応することが困難な場合には、他課への依頼等も含め連絡調整しており、引き続

き支援を行う。令和2年度の主な支援内容は、次表のとおりである。

	担当課	内容
人的 支援	教職員課	○ 研究開発を行うのに適した人材（研究開発等経験者や大学院修了者、海外研修参加者等）や、指導教諭や教科指導力が極めて高い教諭を積極的に配置
	高校教育指導課	○ 教員の定数を増員し、研究開発が円滑に進むように支援 ○ 海外の機関との連携交渉等の業務に係る支援員[非常勤職員]を派遣及び外部連携機関や海外研修受入れ先等との連絡調整 ○ 本事業の取組を支援する担当指導主事を配置
経費的 支援	学校経営戦略推進課 高校教育指導課	○ 旅費・謝金（運営指導委員会実施、事務補助員の配置、国内研修参加、課題研究カリキュラム開発に係る物的及び財政的支援）、消耗品費、借損料

また、以下の表に示す取組に係る事業に事業拠点校及び事業連携校を関わらせることで、広島県全体のイノベティブな人材育成、及び課題研究を中心に据えたカリキュラム開発等に向けたよりよい環境整備に事業拠点校及び事業連携校が貢献できるような仕組みを構築している。

事業名	取組内容
高等学校 課題発見・ 解決学習 推進プロ ジェクト	【教科リーダー研修】（県立高等学校全課程(99課程)の教員を対象) 教科における「主体的な学び」を促す授業の在り方や新学習指導要領の趣旨及び内容についての理解を図る研修に加え、研修内容を生かした自校での実践を通して、校内での教科特性を踏まえた「主体的な学び」を教科内で組織的に実践できる教員を育成することを目的として、授業研究の進め方や新高等学校学習指導要領が示す教科等の特質に応じた見方・考え方について、事例に基づいて講義・演習・協議等を行った。また、各学校における実践の成果及び課題をまとめ、報告した。
	【カリキュラム・マネジメント研修】（県立高等学校全課程(99課程)の教員を対象) 資質・能力の育成を目指した効果的なカリキュラム・マネジメントの実現に向け、学校のカリキュラム全体を俯瞰し、校内で研修等を企画・実施できる教員を育成することを目的として、各校が校内研修等を通して、全教職員がカリキュラム・マネジメントを推進する体制を構築することについて講義・演習・協議等を行った。また、各学校における研究の成果及び課題を報告書にまとめた。
広島県高 等学校教 育研究・実 践合同発 表会	全県の高등학교を対象に、令和2年度に文部科学省、国立教育政策研究所、県教育委員会から事業の指定を受けた高等学校等がこれまで推進してきた研究・実践についてその研究成果と課題を報告した。

### c. 管理機関が、国の委託が終了した後も事業を継続的に実施するために計画したこと

広島県教育委員会の「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト（第3期）」の一部として、本事業は、県立高等学校における探究的な学びを高度化していくため、大学、自治体、企業等との連携・協働の在り方やカリキュラムについて研究を実施していくことになる。

また、本事業における生徒関連プログラムで活動をしている生徒を、「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト（第3期）」で実施を予定している探究活動のプログラムでリーダー的な役割を担わせるなど、本事業での成果を普及することも構想している。

## 【ALネットワークの形成】

### a. ALネットワーク運営組織の実績

構想目的・年度計画の策定、事業の達成状況の確認及び方向性を決定するため、管理機関の代表者と事業拠点校の校長、協働機関や外部アドバイザーをメンバーとするコンソーシアム会議を実施した。開催実績は次表のとおりである。

回	日時	内容
1	令和2年6月24日（水）	・令和元年度の成果と課題について管理機関及び事業拠点校から報



	10:00～11:30	<p>告・説明をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の実施計画を踏まえた各連携機関からの連携方法等について提案を受け、今年度の事業推進の方針について協議をした。</li> </ul>
2	令和3年2月24日(水)～26日(金) ※連携機関ごとに1時間程度で意見交換会としてオンラインで実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の事業実施報告を行うとともに、運営指導委員会の指導・助言内容、令和3年度の計画について管理機関、事業拠点校から報告・説明をした。</li> <li>今後の事業の方向性、事業拠点校の研究開発、事業推進上の課題についてコンソーシアム会議委員と協議をした。</li> </ul>

b. 関係機関の間で十分な情報共有体制を整備し、新たな協働事業の開発、有効な事業実施を実現したこと

関係機関との情報共有体制については、前項目 a に述べたコンソーシアム会議の他に、管理機関とALネットワーク関係校による拠点校、共同実施校、連携校等連絡協議会を開催し、円滑な事業実施を図った。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各学校が通常の教育活動が行えるようになることを優先し、開催時期や開催方法を十分に検討した上で実施した。また、ALネットワークの各校における優れた実践に学び、各学校において還元できるように、会場校を持ち回りとするとともに、カリキュラム開発会議を兼ねて実施することで、より実践交流できるように工夫した。開催実績は次表のとおりである。

回	日時／出席者	内容
1 ※	令和2年7月14日(火) 13:20～16:30 (事業拠点校：広島県立 広島国泰寺高等学校) 各学校の校長・事業担当者 (教諭等)	<p>以下の内容について、管理機関及び事業拠点校から報告・説明した上で、第1回コンソーシアム会議における令和2年度事業実施の方向性も踏まえ協議する予定であったが、大雨警報の発令により、各学校における臨時休業の対応が発生したため、中止とした。</p> <p>【報告・説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の事業実施報告及び成果と課題について報告した。</li> <li>令和2年度実施計画について説明した。</li> </ul> <p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高校生国際会議及びコンソーシアムの構築について協議を行った。</li> </ul>
2	令和2年11月12日(木) 10:00～16:30 (事業連携校：広島県立 西条農業高等学校) 各学校の校長・事業担当者 (教諭等)	<p>※事業拠点校のカリキュラム開発会議の拡大版として実施</p> <p>【全体会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の進捗状況について管理機関から説明をした。</li> <li>文理融合カリキュラム等の開発状況等について協議した。</li> <li>広島県立西条農業高等学校から「SS課題研究」及び学校設定科目「アグリサイエンス」について実践報告を行った。その後、事前協議及び授業参観を行った。</li> </ul> <p>【担当者会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定科目「アグリサイエンス」の授業参観の事後協議を行った。</li> <li>文理融合カリキュラム等の開発並びに実施状況について実践交流を行った。</li> <li>広島大学大学院草原教授による文理融合カリキュラムのカリキュラム分析等について講義・演習を行った。</li> </ul>
3	令和3年1月20日(水) 13:30～16:30 (オンライン) 各学校事業担当者(教諭等)	<p>※事業拠点校のカリキュラム開発会議の拡大版として実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広島県立広島叡智学園中学校・高等学校から合教科型単元のカリキュラム開発及び校内体制等について実践報告を行うとともに、意見交流を行った。</li> <li>広島大学大学院草原教授による文理融合カリキュラムの研究推進に係る事業担当者の役割や外部連携等の在り方について講義・演習を行った。</li> </ul>
4	令和3年3月17日(水) 13:30～16:00 (オンライン) 各学校の事業担当者(教諭等)	<p>※事業拠点校におけるWWL合同成果発表会と兼ねて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合同成果発表会における生徒の発表を踏まえ、各学校における今後の指導の方向性について意見交換を行った。</li> <li>各校から令和2年度の文理融合カリキュラム等の実施報告を行い、担当者間で今後の研究の進め方について意見交換を行った。</li> <li>令和2年度の事業達成状況、運営指導委員(検証担当)による評価及び国内フォーラムについて管理機関から説明を行った。</li> </ul>

c. ALネットワーク運営組織が、当該プログラムの修了生の、国際的な分野を学ぶ国内外の大学への進学や国内外のトップ大学等への進学、海外留学等の促進に寄与したこと

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外研修等海外渡航を伴うプログラムの実施を見合わせざるを得なかった。そのため、実施方法をオンラインに切り替えたりすることで、将来的に国際的な分野を学ぶ国内外の大学への進学や国内外のトップ大学等への進学、海外留学への生徒達の興味・関心やモチベーション維持につながるような取組を行い、ALネットワーク関係校の生徒の参加を促した。取組実績は次表のとおりである。

名称	主催	実施日時	対象	内容
無料オンラインプログラムの情報提供	広島県教育委員会	令和2年7月～ (随時オンライン)	県内の教職員 高校生 保護者	異文化理解をテーマに、民間業者等が実施する無料オンラインプログラムを教育委員会の公式ホームページにおいて案内した。
ひろしま留学フォーラム2020	広島県教育委員会	令和2年12月12日(土) 13:30～16:30 (オンライン)	県内の教職員 高校生 保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トビタテ！留学 JAPAN」制度説明を行った。</li> <li>・留学フェローシップ・留学キャラバン隊2020によるワークショップを実施した。</li> <li>・留学経験者との交流を行った。</li> </ul>

d. ALネットワーク運営組織に専任者からなる事務局を設置した状況及び本事業のカリキュラムを開発する人材の配置状況

[事務局及びカリキュラム開発に係る人材の配置]

区分	機関・担当者等	所掌業務
管理機関 事務局	広島県教育委員会事務局 学びの革新推進部高校教育指導課 高校教育指導担当指導主事3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の全体計画作成、進捗管理</li> <li>・育成を目指す資質・能力の見直し</li> <li>・関係校及び外部関係機関との連携、調整</li> <li>・本事業に係る各種会議の開催</li> <li>・管理機関が主導するプログラム(生徒実行委員会、オンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション講座、Stanford e-Hiroshima, AP)の企画・実施</li> <li>・事業評価の実施</li> <li>・本事業に係る経費の管理</li> </ul>
カリキュラム・アドバイザー	株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業拠点校の「総合的な探究の時間」の研究・開発に対する指導・助言</li> <li>・事業連携校の取組状況についての指導・助言</li> <li>・コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
海外交流アドバイザー	一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト グローバル教育プロデューサー 木村 大輔 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業拠点校が実施する海外研修プログラムに対する指導・助言</li> <li>・コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
事業協働機関	広島大学 高大接続・入学センター 特任教授 杉原 敏彦 氏 県立広島大学 理事・副学長 馬本 勉 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバンスト・プレイスメントに係る制度づくりへの協力及び講座の実施・評価</li> <li>・コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
	広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 草原 和博 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業拠点校の外国語と文理教科との融合科目のカリキュラム開発・実施に係る指導・助言</li> <li>・カリキュラム開発会議における指導・助言</li> <li>・カリキュラム開発に係る有識者を招聘した協議会への出席</li> <li>・コンソーシアム会議への出席</li> </ul>
課外活動コ	【高校生国際会議に係る生徒実行委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内フォーラム及び高校生国際会議に向けた生徒実行委員会の活動に対する指導・助言</li> </ul>

一ディネーター	特定非営利活動法人パンゲア 理事長 森 由美子 氏 副理事長 高崎 俊之 氏	・高校生国際会議に向けたWEBサイト作成に係る指導・助言
	【オンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション活動】 株式会社タイガーモブ COO 中村 寛大 氏 インストラクター 伴 優香子 氏	・国内フォーラム及び高校生国際会議に向けたオンラインによる探究活動プログラム、及び異文化間コミュニケーション講座の活動に対する指導・助言
事業拠点校	指導教諭を筆頭とした本事業に係る校内プロジェクトチーム	・学校として育成を目指す資質・能力の見直し ・「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発・実施、評価及び改善 ・外国語と文理教科とを融合した学校設定科目「グローバル平和探究」の実施、評価及び改善 ・外国語を高度なレベルで習得する学校設定科目「グローバルイングリッシュ」の開発・実施及び評価 ・文理科目を幅広く履修する教育課程の検討・編成 ・海外姉妹校への研修の代替措置の検討及び実施
	外国人講師 1 名	・外国語と文理教科融合した学校設定科目「グローバル平和探究」の実施、評価及び改善 ・外国語を高度なレベルで習得する学校設定科目「グローバルイングリッシュ」の開発・実施及び評価 ・海外姉妹校への研修の代替措置の検討及び実施

#### e. 高校生国際会議等の開催準備状況

生徒実行委員会を組織し、この委員会を中心に高校生国際会議の企画を行ってきた。その結果、高校生国際会議を、令和3年7月28日にオンラインにより実施することとした。広島県から全国・全世界の高校生に「平和」を発信したり、受信したりする会議とし、英語で実施することとした。

会議の内容については、現在検討中ではあるが、広島県知事、国連事務総長からのメッセージをいただけるよう生徒実行委員会を中心に交渉中である。広島出身の元気な社会人からも応援メッセージの依頼も予定している。また、会議において、広島県WWLの関係校における総合的な探究の時間における研究や課外活動として行っている探究活動等の成果として、特に優れた、世界に向けて「平和」を発信できるような研究を発表し、質疑応答する予定である。加えて、生徒実行委員会が作成している、WWL事業の本県における取組の紹介やWEBサイト [hiphope.jp](http://hiphope.jp) の紹介も予定している。

#### f. フォーラムや成果報告会などの実施（あるいは計画）について

本事業の主要な活動場面は、総合的な探究の時間であるため、各校の高校生同士の交流については、令和2年度には事業拠点校及び事業連携校において、事業共同実施校、事業連携校及び県内高校生が参加する「総合的な探究（学習）の時間」又は「課題研究」に係る成果発表会を次表のとおり実施した。

[生徒向けの成果普及]

ねらい	生徒による探究活動の成果等の発表並びに教員の情報交換の場を提供するとともに、授業改善のヒントを得る。
実施時期、実施内容及び実施方法	実施日：令和3年2月13日（土）（場所：広島県立西条農業高等学校、実施方法：集合形態） ※西条農業高等学校におけるSSH事業に係る研究成果発表会に兼ねる。 実施内容： ・「総合的な探究の時間」又は課外活動において行った探究活動の成果発表（ポスターセッション）及び事後協議 ・基調講演

	実施日：令和3年3月17日（水）（場所：広島県立広島国泰寺高等学校，実施方法：オンライン） ・福島県立ふたば未来学園高等学校，海外姉妹校との交流 ・「総合的な探究の時間」又は課外活動において行った探究活動の成果発表
対象者	・事業拠点校，事業共同実施校及び事業連携校の生徒 ・「探究活動プログラム」及び「高度なコミュニケーション」参加生徒 ・研究担当者

また，令和3年度に実施する高校生国際会議の中間地点に位置付けている国内フォーラムを次表のとおり実施する。

実施日	会議名等（主催）	対象者
令和3年3月27日（土）	広島県WWLコンソーシアム構築支援事業 国内フォーラム （広島県教育委員会）	県内外のWWL関係校の生徒及び本県WWL生徒関連プログラム参加生徒

教育関係者に向けた成果普及としての今年度の実績は，次表のとおりである。

〔教育関係者向けの成果普及〕

実施日	会議名等（主催）	対象者
令和3年2月19日（金）	令和2年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会 （広島県教育委員会）	県内の高等学校教員，県立広島大学教員等

g. 構想目的の達成に資する取組を計画し，その効果的かつ円滑な運営のために行った情報収集の実績（事業協働機関，カリキュラム・アドバイザー，海外交流アドバイザーとの連携は除く）

項目	連携機関	内容
高校生国際会議	広島県庁知事部国際課	・国際課が主催する「ひろしまジュニア国際フォーラム」の業務計画，予算規模に関する情報収集及び視察
事業拠点校の取組	立命館宇治中・高等学校	・成果発表会への参加を通し先進的な取組に関する情報収集
事業拠点校又はその管理機関の取組（主にアドバンスト・プレイスメント，文理融合カリキュラムの開発）	全ての事業拠点校又はその管理機関	・電話による情報収集

h. ALネットワーク運営組織の基盤となる関係機関との協定文書等

「広島県と国立大学法人広島大学との包括連携に関する協定」（平成30年）

「広島大学教育学部と同学校教育学部と広島県教育委員会との研究協力に関する覚書」（平成11年）

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施期間（契約日 ～ 令和3年3月31日）												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合的な探究の時間の実施・評価・カリキュラムの改善	2年次生の授業実施・評価，3年次カリキュラムの研究・開発実施，評価・改善												
	昨年度の評価に基づいて改善した1年次生の授業実施・評価											国内フォーラム で成果報告	
	事業拠点校・事業共同実施校・事業連携校相互の実践交流												

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業拠点校の外国語と文理融合科目「グローバル平和探究」の実施・評価		「グローバル平和探究」の実施, 評価・改善											
		事業拠点校・事業共同実施校・事業連携校相互の実践交流											
事業連携校の文理融合的なカリキュラム, 教科・科目の開発・実施・評価		各学校において開発した授業の実施, 評価, カリキュラムの研究開発・実施, 評価・改善											
		事業拠点校・事業共同実施校・事業連携校相互の実践交流											
より高度な内容を学ぶStanford プログラムの実施・評価 Hiroshima の改善		講座内容検討・決定	受講生募集・決定		講座実施								成績評価・単位認定
		→		→		→							
より高度な内容を学ぶ先取り履修 プログラムの実施・評価 (A P) の改善		案内通知・講座登録		講座実施			修了認定			講座案内周知			
		→		→			→			→			
		単位認定の条件整備		次年度講座検討・決定									
		→		→									
海外研修に代わるオンラインプログラム	探究プログラム	海外研修代替案の計画				参加生徒募集・決定		講座実施(月1回)及び個別探究					
		→				→		→					
	高度なコミュニケーション	プログラムの立案・計画				参加生徒募集・決定		講座実施(月1回)及び実践練習					
		→				→		→					
高校生国際会議や国内フォーラムに向けた生徒実行委員会(課外活動)の実施・評価		プログラムの内容検討				参加生徒募集・決定		委員会を6回実施					
		→				→		→					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当ごとの準備</li> <li>・県内外で行われる国際会議の視察, 運営手伝い</li> <li>・高校生国際会議(令和3年度)に向けた準備</li> </ul>											
		→											

国内フォーラムでの発表等

国内フォーラム開催

(2) 実績の説明

a. 設定したテーマについて

広島ALネットワークでは、「グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材の育成」を目標に、事業拠点校の特色やこれまでの取組を基に、グローバルな社会課題に取り組むための大きなテーマを「平和-Peace-」とした。このテーマにおける「平和」とは、単に戦争に対置される概念ではなく、世界に見

られる様々な課題が解決された状態である。生徒の探究活動においては、社会課題の解決に向けたアイデアと行動に積極的に取り組むよう働きかけ、様々な社会課題の認知と取組の契機とするため、SDGsの17の目標を切り口として取り組ませるようにした。

**b. カリキュラム研究開発を、国内外の大学、企業、国際機関等との協働により行ったことについて**

① 事業拠点校の「総合的な探究の時間」の単元開発、実施及び評価・改善

年間を通じて、カリキュラム・アドバイザーと連携を密にし、第1学年及び第2学年の年間指導計画、学習指導案、ルーブリックの作成等について、単元ごとに指導・助言を受け、開発に努めた。

各単元においては、大学、企業及び行政と連携して次表の単元開発を行った。

単元名	内容
「大学×SDGs」 (第1学年)	○広島大学訪問（オンライン、工学部、教育学部、経済学部、生物生産学部） 大学の学問研究の幅広さと奥深さ、またその社会的意義や価値を学ばせ、未来への展望をもたせるとともに、課題研究活動の参考とさせるようにした。
「企業×SDGs」 (第1学年)	○連携企業講座 複数の企業（株式会社広島マツダ及び株式会社サタケ）と連携し、企業の活動が社会課題の解決にどのように結び付いているのか、高校生として何ができるか、自分自身が問題の解決にどのように取り組んでいくかを主体的に考えさせる授業を展開した。
「行政×SDGs」 (第1学年)	○外務省による高校講座（オンライン） 外務省 軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課 主査 中西良介 氏による講演 当該省の業務内容、社会課題解決への取組、社会課題を解決することで持続可能な社会の実現にどのように貢献しているか等について講義を受け、社会課題の解決に向けた行政機関との関連の在り方を考えながら課題研究を進められるようにした。
「探究×SDGs」 (第1学年)	○課題研究の進め方 広島大学大学院統合生命科学研究科 教授 西堀正英 氏による講演 大学の研究者から研究の進め方に関する専門的な講義を受けることで、課題研究に対する理解を深め、課題研究を円滑に進めることができるようにした。
課題研究中間発表会 (第2学年理数コース)	同窓会と連携し、OB、OGの方に社会人TA（ティーチャーズ・アシスタント）として、社会人の立場で、生徒の課題研究に対して助言を受けた。それにより、課題研究に対する理解を深め、研究活動がより充実するようになった。
サイエンス講座 (第2学年理数コース)	○島嶼国「キリバス」から考える気候変動対策オンライン講座 一般社団法人日本キリバス協会・代表理事 前キリバス共和国名誉領事・大使顧問 ケンタロ・オノ 氏による講演 キリバスの直面している環境問題について、体験者本人から直接話を聞き、疑問に思ったことを意見交換することで、環境問題を自分のこととして捉える意識を醸成するようになった。
サイエンス講座 (第2学年理数コース)	○先輩に学ぶ講座 ペリメーター理論物理学研究所（カナダ）客員研究員 大下 翔誉 氏による講演 高校や大学での研究活動について講演を聞き、課題研究の進め方を学ぶとともに、未来の科学者・技術者として成長使用するモチベーションの向上に資する内容となるようにした。

② 事業拠点校の文理融合的な科目の開発

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 草原 和博 氏から、事業拠点校における外国語と文理教科との融合科目である教科「HEIWA」、科目「グローバル平和探究」の実施に関する指導・助言を受けた。また、事業共同実施校及び事業連携校における文理融合科目又は文理融合カリキュラムの開発・実施に関する指導・助言を受けた。

単元名	内容
人口問題	○「イノベティブなグローバル人材とは—コンピテンシー・ラーニングに向けて—」 広島大学大学院人間社会科学研究科・国際教育開発プログラム 准教授 中矢 礼美 氏による講演
食糧問題	○「アジア、アフリカの食糧事情及びその方面でのサタケの事業について」



	株式会社 サタケ アジアビジネス事業部の東さとみ 様, 梶原 佑華 様による講演
エネルギー問題	○「CO <sub>2</sub> について考えてみよう」 公益財団法人中国地域創造研究センター産業創造部ネットワーク支援グループ主任 研究員 江種 浩文 様による講演
都市・貧困問題	○「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」 独立行政法人 国際協力機構中国センター(JICA中国) 遠藤 架奈 様による講演
民族・領土問題	○「南スーダンでの日本の果たす役割」 独立行政法人 国際協力機構中国センター(JICA中国) 羽立 大介様による講演
エリアスタディ	○中間発表及び最終発表 広島大学及び広島大学大学院の学生による発表へのコメント

### ③ Stanford e-Hiroshima の開発

米国スタンフォード大学と管理機関が連携をして、県内の高校生を対象とした遠隔授業の講座の提供を行った。詳細は項目 h に述べる。

### c. 設定したテーマと関連し、外国語や文理両方の複数の教科を融合した内容を、外国語を用いながら探究活動を行うグローバル探究等の教科・科目を設定した状況について（外国人講師等を活用した実績を含む）

事業拠点校では、昨年度、グローバルな社会課題に対して、深く理解するとともに、それらの課題の解決に向けて自分なりに考え表現する力と、他者の意見を受け入れつつ、協働でよりよい答えを見出す力を育成するために、外国語と文理教科（当該校では、地理歴史科、数学科及び理科）との4教科の融合教科・科目として、学校設定教科「HEIWA」における科目「グローバル平和探究」のカリキュラム開発を行った。成果物として年間指導計画を作成した。

本年度は年間指導計画に基づき、単元計画を作成して授業を実施した。実施に当たっては、4教科から外国人講師を含む10名の教員で担当した。担当者会を週時程に位置付け、単元の構想等を協議したり、授業の進捗等を確認したりしている。

また、校内における単元構想の協議を活性化することと若手教員の人材育成を目的にカリキュラム開発のワークショップを実施し、3学期の単元「エリアスタディ」の開発を行った。これには、県教育委員会の担当者が支援を行った。

事業共同実施校や事業連携校においては、文理融合の視点を取り入れた取組を行うとしたらどのような形が自校にふさわしいか校内で協議を重ね、各学校の実態に応じた取組を進めてきた。事業拠点校と同様に学校設定科目として開設した学校、総合的な探究の時間の単元として開発した学校、バカロレアの仕組みの中で合教科型単元を開発した学校など、学校の特色に応じた多様な取組となった。これらの取組は連絡協議会等で実践交流することで、他校の実践から多くの視点を獲得する機会とすることができた。

### d. 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等を、カリキュラムの中に体系的に位置付けて実施したこと

〔カリキュラムへの位置付けについて〕

本年度、事業拠点校においては、管理機関又は事業拠点校が実施する探究的な海外研修に参加した生徒については、学校設定科目において単位を認定することを予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響のため、短期・長期留学や海外研修等を実施できておらず、カリキュラムの中に体系的に位置付ける体制が完了しているところである。

なお、事業連携校においては、令和2年度についてはカリキュラムに位置付けた実施をしていない。

〔管理機関主催の海外研修〕

当初の予定では、管理機関主催の海外研修として、本事業で育成を目指す資質・能力のうち、「課題発見・解決力」、「言語・コミュニケーション能力」、「イノベーション」、「オープンマインド」、「グリット」の育成を目指し、多様な文化的背景を持つ他者と協働的な活動を3年間でステップアップするようなプログラムを計画していた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、昨年度事業拠点校及び事業連携校の第1学年の生徒を対象としたプログラム（STEP1）を中止するとともに、今年度開発・実施予定であったプログラム（STEP2）についても、実施を中止せざるを得なくなった。そのため、海外研修の代替として、事業拠点校及び事業連携校の第1学年及び第2学年の生徒を対象とした「探究プログラム」及び「高度なコミュニケーション」の2つのオンラインによるプログラムを開発し、実施した。

「探究プログラム」は、平和で持続可能な国際社会の構築のために、「平和」を探究活動の軸に据え、様々な社会課題に対する解決策を模索し、アクションを伴う探究活動を行うプログラムである。活動内容は、本プログラムのコーディネーターの指導・助言のもと、参加生徒は個人又はグループでの探究活動に取り組むとともに、月に1回程度、主としてオンラインによる全体セッションを実施している。参加生徒は、それぞれの探究活動をブラッシュアップするために、互いにフィードバックを与えるだけでなく、時には自主的に学習会やディスカッションを行ったりして、協働的な学びを作り出している。また、海外からのゲストにそれぞれの探究活動を発信してフィードバックをもらったり、「平和」についてディスカッションを行ったりするなど、多様な文化的背景を持つ他者との活動にも取り組んだ。

「高度なコミュニケーション」プログラムについては、世界平和を構築するためのコミュニケーションのあり方をテーマに、異文化間コミュニケーションにおけるファシリテーション講座を実施した。多様な文化的背景を持つ人々が相互理解を図りながらコミュニケーションをとるために考慮しておくべきこと等を学習する理論編と、各参加生徒がディスカッションテーマを設定し、ファシリテーションを行う実践編を行った。「探究プログラム」との合同セッション、WWL合同成果発表会、海外のゲストが参加するディスカッションなど、英語及び日本語によるファシリテーションの実践を積んだ。

〔事業拠点校が実施する海外研修〕

事業拠点校においては、SDGsの視点から世界規模の課題の解決にアプローチする探究活動を、姉妹校（米国）とともに実施した。新型コロナウイルス感染症の影響から、渡米して研修を実施することができないため、YouTubeを使い、事業拠点校理数科における「総合的な探究の時間」や、「課題研究成果発表会兼 WWL 拠点校・共同実施校・連携校合同発表会」で互いの探究活動を交流する取組を行った。

**e. 体系的なカリキュラムの編成にあたって、文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をしたことについて**

事業拠点校において、平成31年度入学者（普通科）同様、令和2年度及び令和3年度入学者の必修教科目を中心に幅広く学べる教育課程とした。具体的には、地理歴史科、公民科、理科の科目をできるだけ幅広く履修できるように変更した。地理歴史科では、「世界史」が必修教科目であるのに加えて、新科目の「グローバル平和探究」は、地理的な内容を含むグローバルな社会課題を探究する科目として設置しており、「日本史」も選択可能としたため、地理歴史科は3科目の内容の履修を可能にした。公民科では、第1学年で「現代社会」を履修した上で、第2学年で全員が「倫理」を履修するものとした。「政治・経済」は、新科目の「グローバル平和探究」において、国際経済、国際政治に関わる内容を取り扱うとともに、「政治・経済」は第3学年の学校設定科目（公民設定科目）において、選択して履修できることとした。理科では、第2学年までで全ての生徒が「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」を履修することとした。また地学については、第2学年で選択履修することができる。また、第3学年では「物理」、「化学」、「生物」の3科目を履修できるようにした。

**f. 学習活動が、構想目的の達成に資するよう工夫したこと**

○ 管理機関において、各ALネットワーク校との協議やカリキュラム・アドバイザー等の指導・助言を経て、育成を目指す資質・能力を整理し、本事業において行う各プログラムがその資質・能力の育成のプロセスに位置付くようにした。具体的には、関係機関とプログラムの開発において、マスタールーブリックに基づいて各プログラムにおいて育成を目指す資質・能力を設定した。また、プログラムの事前、中間、事後において参加

- 生徒による自己評価アンケートにも反映させた。
- 事業拠点校において、高校生国際会議（令和3年7月実施予定）を「総合的な探究の時間」における探究の過程に位置付け、高校生国際会議が成果発表にとどまることなく、生徒の探究がより深まる場となるように計画した。

**g. 大学教育の先取り履修の実施に向けた計画及び実施**

事業協働機関である広島大学と県立広島大学とともに、事業拠点校及び事業連携校の生徒に向けた大学教育の先取り履修の実施に係り、新型コロナウイルス感染症への対応を加味しながら、最終調整を行った。その結果、それぞれの大学の実態を踏まえて、ALネットワーク校6校に対し講座を提供することができた。具体的には、広島大学からは8月の夏季集中講座の3講座でオンデマンドにより実施され、12月までには受講者に単位履修証明書の発行を修了させた。一方で、県立広島大学からは11月中旬以降後期の5講座でオンライン及びオンデマンドにより実施され、3月までには受講者に単位履修証明書の発行をした。

次年度に向けて各大学と協議し、今年度の実績を踏まえて、講座数や受講者数を拡大する方向で調査委を行うことにしている。

主な取組は次の表に示すとおりである。

年度	取組内容
令和2年度以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学側と実施時期、開講講座、募集方法、単位履修の規約等の協議</li> <li>・ 受講者の募集及び受講者の決定</li> <li>・ 大学教育の先取り履修の実施</li> <li>・ 大学側からの実施状況、単位履修状況の報告、単位履修証明書等の発行</li> <li>・ 次年度の大学教育の先取り履修の実施時期、開講講座の協議</li> <li>・ 次年度の大学教育の先取り履修の募集および受講者の決定</li> </ul>

**h. より高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境の整備**

広島県教育委員会では、g. で示した大学教育の先取り履修に合わせて、より高度な内容について、米スタンフォード大学との連携を通し、県内の高校生等を対象とした遠隔授業の講座を昨年度同様に提供した。本年度は昨年度と比べ、応募校数及び応募者数ともに増やし（令和元年度15校、35名→令和2年度28校75名）、認知度が高まった。また、より多様な学校の生徒により高度な内容を学習する機会を提供することができた。

実施方法や内容については、昨年度を踏襲している。昨年度との変更点は、開始時期を前倒しして、Final Research Projectに取り組む日数を確保したことと受講者同士の交流が活発に行えるようにFinal Research Projectのプレゼンテーションのセッションを2回追加で実施したことである。また、本プログラムにおいて主に育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「言語・コミュニケーション能力」としており、このプログラムの参加により生徒がこれらの力が身に付いたか自己評価させる事前と事後のアンケート調査を実施した。

具体的な講座の情報については、次の表に示すとおりである。

(1) 実施時期	令和2年9月13日～令和3年2月27日
(2) 受講者数	29名（県内の県立高等学校16校から27名、国立高等学校1校から1名、高等専門学校1校から1名）
(3) 指導担当者	スタンフォード大学教員、講座の単元テーマに造詣が深い専門家等
(4) 講座の単元テーマ例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本から米国への移民</li> <li>・ シリコンバレーと起業家精神</li> <li>・ 多様性</li> <li>・ 姉妹都市—広島とホノルル</li> <li>・ 平和教育</li> <li>・ 環境問題</li> </ul> ※広島県独自のテーマには下線を付してある
(5) 受講方法	自宅等のインターネット環境で、講義のビデオを視聴したり、配信されたテキストに関する質問に回答したりしながら、日米に共通するグローバルな課題について英語で意見交換や議論を行う。

<p>(6) 1単元の流れ例(全て英語で実施) ①～④) 及び Final Research Project</p>	<p>【1単元の流れ例】</p> <p>① 講義視聴 単元で扱われる題材に関して指示された資料(テキスト)を事前に読み、講義を視聴する。</p> <p>② 課題 資料(テキスト)の内容に関する質問や課題に取り組み、送信提出する。また、専用ホームページ上で、受講者間で意見交換を行う。</p> <p>③ ONLINE Discussion ライブ授業(Virtual Classroom)で、単元を担当する指導者と受講生徒や受講生徒同士でディスカッション等を行う。 ※Virtual Classroom: 単元ごとに1回実施(年間6回、毎月1～2回) 実施日は主に土曜日の午前(10時から11時30分頃から開始)</p> <p>④ Discussion Board Posts 単元で扱われる題材に関するテーマについて、指定された掲示板に意見を投稿したり、他の受講者の投稿に対して意見や質問を投稿したりする。</p> <p>【Final Research Project】 単元の内容と関連のあるトピックを一つ選び、それについて自分で調べたことをまとめて英語でプレゼンテーションを行う。</p>
<p>(7) 修了認定</p>	<p>単元ごとの課題の提出状況、ディスカッション等での意見の内容、プレゼンテーション(質疑応答を含め2分間程度)等により総合的に評価され、認定される。 ※最優秀の成績を修めた者2名がスタンフォード大学に招聘され、表彰される。</p>

i. アジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる留学生等の日本での学習や生活を支援する体制を整備したこと

「アジア架け橋プロジェクト」については、管理機関は、公益財団法人AFS日本協会と連携して、受入れや県内各支部における異文化交流活動等に取り組んでいるが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響で、留学生の受入れ及び派遣が中止されている。県立高等学校の姉妹校との交流事業についても、留学生の受入れ及び派遣が困難な状況が続いているが、オンラインによる姉妹校交流を実践している学校もある。

管理機関は、オンラインによる姉妹校交流等について、県立学校に情報提供するとともに、教育交流協定を締結しているオーストラリア連邦クィーンズランド州教育省の協力のもと、クィーンズランド州立学校とのオンライン交流ができる体制を整え、4校が実施した。

8 目標の進捗状況、成果、評価

- a. イノベティブなグローバル人材の育成状況(記載の際には、資質・能力(コンピテンシー)、心構え・考え方・価値観等(マインドセット)、探究スキル等について、スーパーグローバルハイスクールの成果検証において設定している高校生段階のグローバル人材の資質・能力等も踏まえて記載すること。)

〔事業拠点校〕

事業拠点校において、本事業を通して育てたい資質・能力について、第1学年及び第2学年の生徒、教職員を対象に、令和2年4月と令和3年1月の時点で、ループリックによる評価を行い、その変容を見取った。その結果、4月から1月にかけて「資質・能力がいずれも伸びた」と考えている生徒及び教員がほとんどであり、「総合的な探究の時間」を通じた取組に成果があったといえる。

結果を詳細に分析した。まず、生徒の自己評価を比較すると、第2学年より第1学年の評価が高い。これは、課題研究を進める中で、自己の達成度に対するメタ認知が醸成されたことが要因と考える。次に、生徒の自己評価を比較すると、普通科理数コースより普通科の評価が低い。これは、理数系の分野別研究において、その分野を専門とする教員が指導をするため、研究内容に対する教員からのクリティカルな指摘回数が多いことが要因と考えられる。さらに、生徒の自己評価と教員による評価を比較すると、教員の評価より生徒の自己評価が高い。これは、目指す達成レベルが生徒より教員が高いことが要因と考える。令和元年度の第1学年と令和2年度の第1学年の生徒で比較すると、令和2年度の第1学年の生徒の方が高い評価となっ

た。これは、令和元年度に開発したカリキュラムを改善して取り組んだ成果と考えられる。

これらのことから、第1学年のカリキュラムについては、昨年度カリキュラム・アドバイザーと連携して開発したカリキュラムを基に改善を進め、育成を目指す資質・能力の向上を図ることができたと考える。また、第2学年についても、自ら設定したテーマについて課題研究を進めることができるカリキュラムをアドバイザーと連携して開発することができたと考える。

#### 〔事業拠点校、事業連携校〕

事業拠点校、事業連携校（広島大学附属福山高等学校を除く4校）の第1学年及び第2学年の生徒を対象に、SGHにおいて設定されているグローバル人材の資質・能力等の育成状況に係る意識調査を実施した（2月）。また、質問事項を本事業で育成を目指す7つの資質・能力と対応させて得られた回答の分析を行った。その結果、全ての資質・能力等について、83.8%の生徒が肯定的な回答をした。事業拠点校においては、全ての資質・能力等について第2学年の生徒の方が肯定的に回答している割合が大きくなっている。その中で、やや肯定的回答の割合が第1学年及び第2学年ともに70%台と低いのが、批判的・論理的思考力とイノベーションであった。生徒の記述文と併せて分析すると、両者ともそれらの資質・能力が発揮される具体的な姿が、管理機関も含めて、各校の教員から十分に示せていないことや生徒が具体的なイメージを持つことができていないことなどが要因ではないかと考える。事業拠点校の教職員に対して実施した授業改善の進捗や取組について行ったアンケート調査結果からも、批判的・論理的思考力とイノベーションの指導については課題があると回答した教科が多かった。

また、学校間で比較すると、イノベーションとグリットに対する肯定的な回答の割合が68%～80%前半となっており、他の資質・能力と比べるとやや低い値となった。新たなものを生み出そうとする意欲やあきらめず試行錯誤して取り組もうとする態度やメタ認知などに課題があると考える。学ぶ意義や目的、自身を俯瞰する態度等を育成する場面を意図的に設定する等の指導の工夫が必要と考える。次年度以降の事業の遂行において、生徒に自分の能力を発揮させるような経験を十分にさせていくように留意していく必要がある。

#### b. ALネットワークが果たした役割

今年度は、主に事業拠点校の取組、管理機関が主催するプログラムの実施に対してALネットワークの各学校・機関が機能した。各学校・機関の果たした役割は次表のとおりである。

学校・機関等	役割
管理機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の進捗管理と評価、事業拠点校への指導、各種会議の開催、ALネットワークの関係者間の連絡調整、経費の管理・確保を行った。</li> <li>・管理機関主催のプログラム（Stanford e-Hiroshima、AP、生徒実行委員会、オンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション活動）を企画及び実施した。</li> </ul>
事業拠点校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」「グローバル平和探究」（文理融合的な科目）の単元を提案した。</li> <li>・合同成果発表会を企画及び実施した。</li> </ul>
事業共同実施校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業拠点校の「総合的な探究の時間」の提案について助言を行った。</li> <li>・「未来創造科」及び合教科型単元の実践報告により、探究スキルの習得やカリキュラム開発に係る校内体制の在り方等について、ALネットワークの各学校に紹介した。</li> </ul>
事業連携校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の取組を踏まえ、事業拠点校の「総合的な探究の時間」「グローバル平和探究」の実践に対して意見交換を行った。</li> <li>・各学校における研究成果や取組について、ALネットワークの各学校と実践交流した。</li> </ul>
事業協働機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>（広島大学・県立広島大学）</li> <li>・アドバンスト・プレイスメントの実施に向けた体制の検討と管理機関との連携を行った。</li> <li>（広島大学）</li> <li>・事業拠点校の「グローバル平和探究」の開発、実施に対する指導・助言を行った。</li> </ul>
カリキュラム・アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業拠点校の「総合的な探究の時間」の単元計画の作成や教材の開発、ルーブリック作成に係る指導・助言を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からみたグローバル人材の在り方について、各種会議の場で提言を行った。</li> </ul>
海外交流アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員向け研修会等の情報提供を行った。</li> <li>・大学生向けのオンライン海外交流プログラムの情報提供を行った。</li> </ul>
課外活動コーディネーター	(特定非営利活動法人パンゲア) <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内フォーラム及び高校生国際会議に向けた生徒実行委員会の活動に対する指導・助言を行った。</li> <li>・高校生国際会議に向けたWEBサイト作成に係る指導・助言を行った。</li> </ul>
	(株式会社タイガーモブ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内フォーラム及び高校生国際会議に向けたオンラインによる探究活動プログラム及び異文化間コミュニケーション講座の活動に対する指導・助言を行った。</li> </ul>
その他（事業協働機関以外の大学、企業等）	(Stanford 大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Stanford e-Hiroshima の企画において管理機関に協力し、講座を実施した。</li> </ul>

### c. 短期的、中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度2月末から本年度の5月末まで、学校の臨時休業が余儀なくされ、本事業の実施にも大きな影響が出た。開始時期をずらしたり、実施方法を変更したりする等の対応を迫られたが、短期的にみると各プログラムの本年度の進捗は概ね計画通り遂行できていると考える。教育課程内で実施したプログラムについては、事業拠点校を中心に検証を終了しており、「総合的な探究の時間」「グローバル平和探究」それぞれにおいて、概ね生徒の変容が見られている。また、教育課程外で実施した管理機関が実施した各プログラムの実施が生徒の資質・能力の育成にどの程度寄与したかについては、3月末まで実施するものもあり現在検証中である。

中・長期的にみると、高校生国際会議（令和3年7月28日）の実施に向け、事業拠点校及び事業連携校における教育課程への位置付けや指定終了後の継続的な取組の在り方などについて検討した上で、関係校と調整を進める必要がある。

### 9 次年度以降の課題及び改善点

#### ○ 管理機関の課題や改善点について

- ・本事業の目標（育成を目指す生徒の姿）を明確にする。
- ・達成状況を評価する時期・方法等について研究を進める。（マスターループリックの活用）

#### ○ ALネットワークの課題や改善点について

- ・事業拠点校を中心とした教育課程内外での生徒の交流や教員の実践交流を進める。

#### ○ 研究開発にかかわる課題や改善点

- ・各校の実態に応じた文理融合の視点を取り入れた取組について議論を進めるとともに、令和4年度以降年次進行で実施する新学習指導要領に基づいた教育課程の編成を滞りなく行う。

### 【担当者】

担当課	高校教育指導課	T E L	082-513-4994
氏 名	龍王 理香	F A X	082-222-1468
職 名	指導主事	E-mail	koukoushidou@pref.hiroshima.lg.jp